

# 令和4年度卒業生からの一言メッセージ

「当校で学んだことや学びが臨床での看護にどのように活かされているか」についてのメッセージを紹介します。

新発田病院 勤務 U・Mさん

手術室では、手術前日の術前訪問で患者さんに初めてお会いし、手術や術後の不安などの、多くのことを短時間で患者さんから聞き取る必要があります。実習では、その日に取らなければならない情報の内容を毎日考えながらコミュニケーションをとっていたことが、今に活かされていると思います。



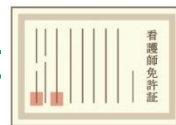
新発田病院 勤務 A・Tさん

わたしが看護学校で学んだことは、患者さんへのケアや看護技術はもちろんですが、コミュニケーションのとり方などは実際の医療の現場での実習で深く学ぶことができ、とても印象に残っています。実習を通して沢山の経験ができたことで、患者さんの訴えや本当に伝えたいことは何かなどの思いを汲み取る力を身につけられたと思います。この経験は、臨床の看護でも活かすことができていると感じます。



がんセンター新潟病院 勤務 M・Hさん

学校では、患者さんの個別性や相手の立場になって考えることの大切さを学びましたが、看護のどの場面においても大切なことだと実感しています。また、実習でおこなってきたアセスメントや記録、患者さんとのコミュニケーションなどは、そのまま今に活かすことができていると思います。



がんセンター新潟病院 勤務 M・Wさん

新発田看護学校は病院に隣接しているため実習に行きやすく、現場で活躍されている医師や看護師から授業を受けることができる点に魅力を感じていました。また、座学に加えて演習や実習が充実しているため、就職後は学校で身につけた知識や技術を活かした看護ケアの実践ができると感じています。

新潟県立燕労災病院 勤務 K・Tさん

臨床では、患者さんの状態を報告したり必要なケアを相談したりと、多くの方とコミュニケーションをとる事が大切であると感じています。学校でも患者さんやご家族、病院のスタッフや先生方と沢山のコミュニケーションをとる機会があったため、働き始めても活かしています。



新潟県立燕労災病院 勤務 S・Oさん

先生方や先輩方はとても優しく、悩んだり困ったりした時には親身になって話を聞いてくださいました。クラスのみならずは楽しく面白い人ばかりでした。素敵な方々に囲まれ、隣には大きな実習病院があり、とても恵まれた環境の中で3年間学ぶことができたのだと、就職して改めて感じました。働きはじめて、学生のときよりもさらに患者さんに関わったり、処置をする機会が増えた中で、演習での「患者役」をしたことが、患者さんの立場になって考えるということに繋がっていると感じています。また、実習ではタイトなスケジュールの中で大変なこともありましたが、働いてみて実習のときにおこなっていた、タイムリーに記録を書く、報告・連絡・相談の重要性にあらためて感じ、コロナ禍の中でも実習を実施させていただくことができ良かったと思いました。